

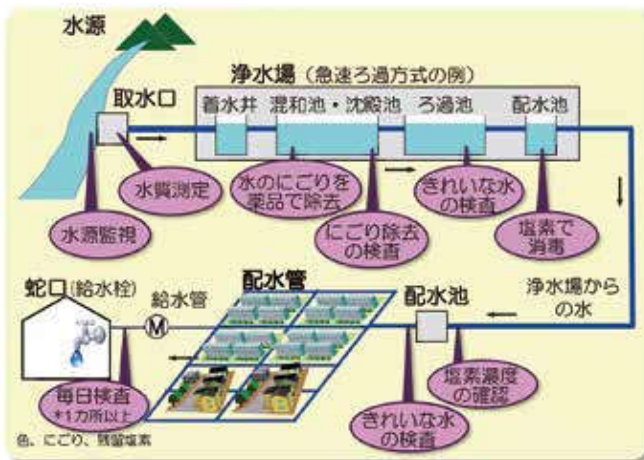
水道のいま。

「この水はどこから来ているんだろう」疑問を抱いたことはありませんか。じゃ口をひねると、いつもきれいで安全な水が出てきます。水道水は飲み水をはじめ生活用水として家庭や学校、事業所などさまざまな場所で使用される生活になくはならないものです。市の水源は約7割が地下水、残りの約3割が川の水です。そのままでは砂や濁り、雑菌などが含まれます。きれいで安全な水を届けるため水道水をつくる浄水場^{※1}では24時間体制で水質管理が行われています。

どのように水がきれいに
なっているのか

水源から取り込まれた水は浄水場でごみなどの汚れがろ過され、

給水までの流れ(イラスト引用:水道PRパッケージ)



塩素消毒で安全な水になります。取水され水道のじゃ口から出るまでに法律で義務付けられた51項目の水質検査が行われています。

水道施設は
どれくらいあるのか

市が保有する水道施設数は浄水場が18か所、配水池^{※2}が73か所あります。この施設数は人口が同規模の市町村と比較すると浄水場が3倍、配水池が約3・5倍多くなっています。また、水道管の長さも約1・5倍長くなっています。これは市の給水区域が広大で谷あいにも多くの集落が点在するなど地形的要因が影響しています。

※1 浄水場とは水をきれいにする施設のこと

※2 配水池とは配水量を調整するため、一時的に水を蓄えておく施設のこと

水道施設数などの類似団体平均との比較

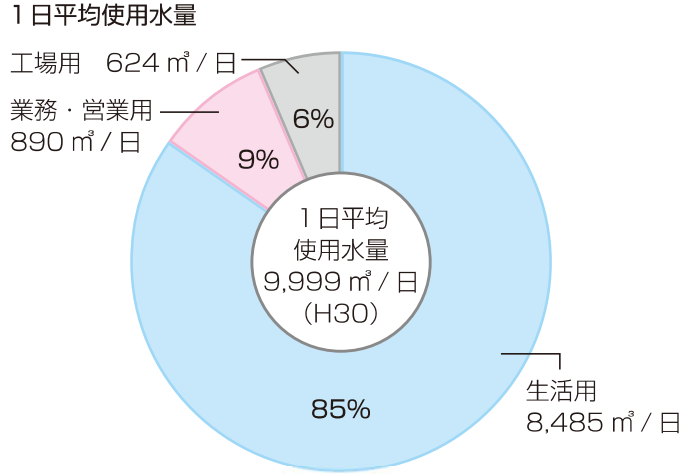
項目	宍粟市	類似団体の平均
浄水場の数	18	6
配水池の数	73	21
水道管の長さ (km)	620	418

※類似団体…給水人口3万人～5万人の団体



1日の使用量

1日あたりの平均使用水量は9,999立方メートルです。そのうち生活用水量が8,485立方メートルと全体の8割以上を占めています。次いで業務・営業用が890立方メートル、工場用が624立方メートルとなっています。企業や工場などの大口使用者の割合が他市町と比較して少ないという特徴があります。



水道料金の水準

市の水道料金（口径13ミリで水20立方メートルを使用した場合）3,454円は、全国平均の3,235円や県の平均2,874円、

類似団体の平均2,914円よりもやや高い水準です。これは水道施設の建設費や水道設備の維持管理費が他団体よりも多くかかっているためです。

全国の水道料金の分布（口径13ミリで水20m³使用時）

水道料金	団体数	構成率
0円以上 1,000円未満	2	0.15%
1,000 1,500	15	1.15%
1,500 2,000	74	5.65%
2,000 2,500	234	17.88%
2,500 3,000	279	21.31%
※3,000 3,500	224	17.11%
3,500 4,000	192	14.67%
4,000 4,500	150	11.46%
4,500 5,000	78	5.96%
5,000 5,500	45	3.44%
5,500 6,000	10	0.76%
6,000 6,500	5	0.38%
6,500 7,000	1	0.08%

※全国平均	3,235円	宍粟市	3,454円
類似団体平均	2,914円	最安団体	853円（赤穂市）
兵庫県平均	2,874円	最高団体	6,842円（夕張市）

※価格は税込料金

全国水道料金調べ（H29 総務省統計より）

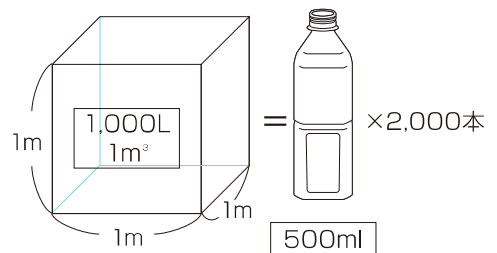
これからの水道事業をとりまく経営環境

市の水道普及率は98・6%で市民のほとんどが使用しています。今後も安全な水を供給するため施設の更新や災害に強い施設の整備が必要になります。市が水道事業全般のコスト削減や経営の効率化に取り組んでいます。人口減少による水道使用量の減少などが見込まれる状況から大変厳しい経営状況となっています。市は今後も安心安全な水を供給できるよう努める方針です。水道事業の経営は市民の水道料金で支えられています。これからも安全で良質な水道をみんなを守りましょう。

☎ 水道管理課 63・3129

宍粟市の水道料金（1,000Lあたり）

約184円※



※水道料金収入（全口径）6億7,000万円÷水道料金収入になった水量3,649m³=184円

水道のこれから

先月号の「水道のいま。」に続き今回は、平成30年度の水道事業収支から考える「これから」です。

市の水道事業で市内の給水が行われています。平成30年度末時点での給水件数は約14,000件、水道普及率は98・6パーセントに達しています。1年間の送水量は約427万立方メートルで、そのうち約365万立方メートルが料金収入になりました。

給水・配水一覧

項目	決算値
年度末給水件数	14,489 件
年度末給水人口	37,185 人
年間総配水量	4,269,300 m ³
1日平均配水量	11,697 m ³
1日最大配水量	14,274 m ³
年間総有収水量	3,649,723 m ³

水道事業 黒字か赤字か

水道事業の収益的収入は12億970万円、そのうち料金収入は約6億7,000万円、一般会計から水道事業会計への繰入金収入が約2億8,000万円ありました。繰入金は国の基準に基づくも

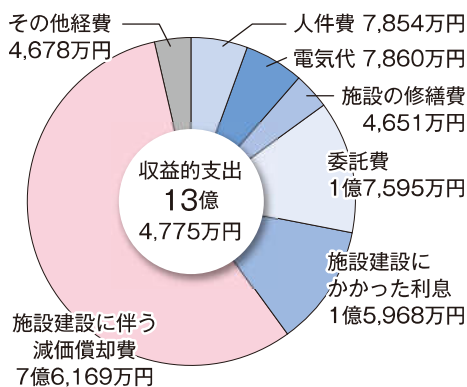
ので、消火栓や施設整備費用などの一部に対して一般会計から投入されています。

一方、収益的支出は13億4,750万円でした。建設済みの施設に要する支払利息と減価償却費が合計約9億2,000万円と高額で、費用の大部分を占めています。

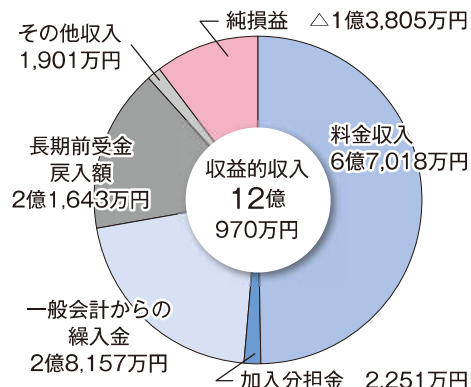
資本的収入は合計4億5,839万円、そのうち施設建設費の借入金収入が約1億4,000万円、一般会計からの繰入金収入が約3億円でした。資本的支出は合計9億5,160万円、施設整備事業に約1億9,000万円、借入金返済が約7億5,000万円でした。

給水区域が広大で谷あいにも多くの集落が点在する地形的要因から配水管や配水池、ポンプなど多数の施設が必要です。施設の維持改修には多額の費用が必要で、水道経営の大きな負担になっています。料金収入と一般会計からの繰入金を合わせても収入が不足し、約1億4,000万円の赤字です。将来の建設費用を積み立てていくことが必要ですが、赤字の補てんのため約9億4,000万円の積立金のうち約6,300万円が取り崩されました。

収益的支出



収益的収入



長期前受金戻入額とは施設建設時に収入した国庫補助金などを減価償却費に応じて収益計上している現金を伴わない収入のこと。

こんな意見も ありました

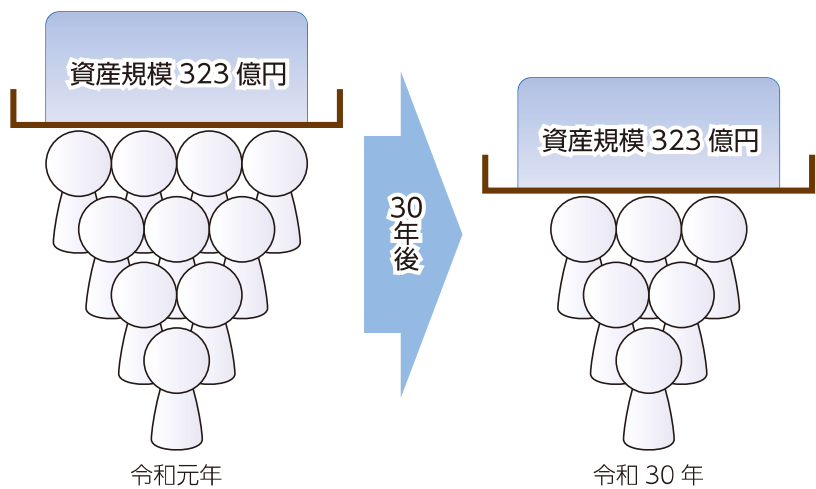
平成30年度に開催された市水道事業経営審議会で次のような提言がありました。

- 子どもたちなど将来の世代に過度な負担を残さないためにも、経営の健全化に向け、費用の削減と収入の確保の両方を進めなければならない。
- 水道事業の受益者は、市民全体におよぶことから政策として追加補助が実施できないのか。 など



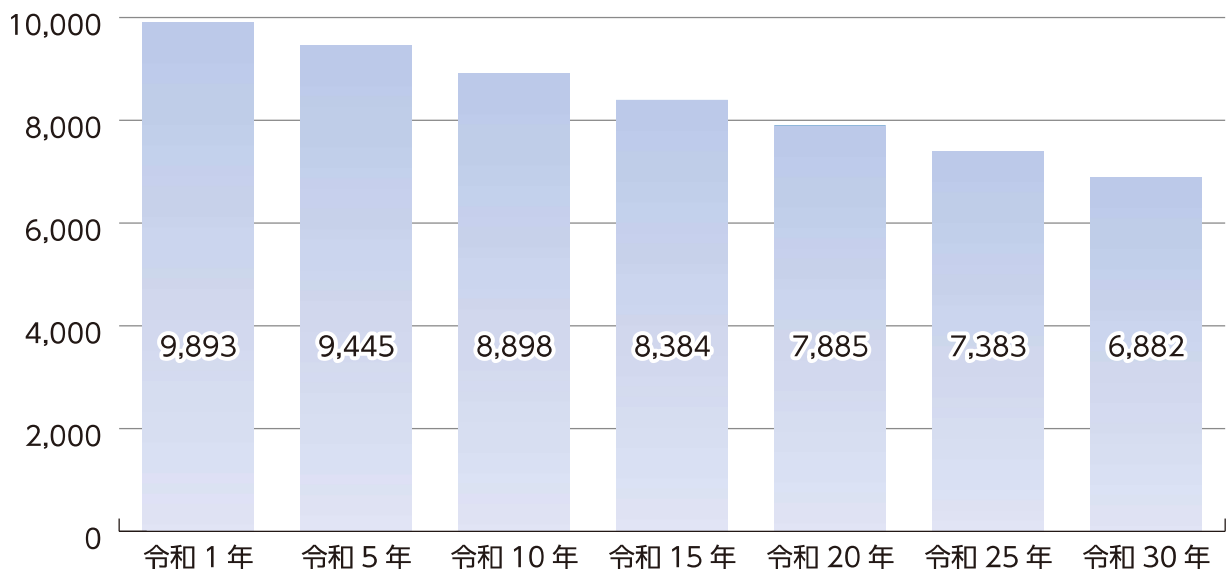
市水道経営審議会の様子

水道事業将来の見通し
水の需要は、人口減少とともに減少する傾向にあります。令和元年度、市は1日あたり9,893立方メートルの水需要を見込んでいます。しかし、給水人口の減少で30年後には6,882立方メートルまで減少する見通しです。
安心安全な水の供給には大小さまざまな施設整備が必要です。市が保有する水道施設の規模は323億円にのびります。この水道資産を減少する人口で支えていかなければならないということが、水道事業の最大の課題です。水道事業を安定的に継続するには、さらなる経費削減と収入確保を検討しなければならない時期に来ています。



水道事業を支えるイメージ図

人口減少に伴う1日当たりの給水量の推移 (m³/日)



問 水道管理課

☎ 63・3129